

横浜市強度行動障害支援力向上研修（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】）カリキュラム

科目名	時間数	内 容		講義名
I 講義	7.2H			
1 強度行動障害がある者の基本的理解	2.5H	① 強度行動障害とは	本研修の対象となる行動障害	「プロローグ～強度行動障害のある人についての基本的な理解～」 0.5H 「私たちのことを知ってほしい～強度行動障害に関係する障害について～」 1H
			強度行動障害の定義	
			強度行動障害支援の歴史的な流れ	
			知的障害/自閉症/精神障害とは	
			行動障害と家族の生活の理解	
			危機管理・緊急時の対応	
2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識	4.2H	② 強度行動障害と医療	強度行動障害と精神科の診断	「医療と一緒に～福祉と医療の連携～」 1H
			強度行動障害と医療的アプローチ	
			福祉と医療の連携	
		③ 強度行動障害と制度	自立支援給付と行動障害／他	「支える仕組み～制度理解のヒント～」 0.6H
			（例）支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修	
		④ 構造化	構造化の考え方	「ボクらの世界とのつながり方～環境を整える事の大切さ～」 1H
			構造化の基本と手法	
			構造化に基づく支援のアイデア	
		⑤ 支援の基本的な枠組みと記録	支援の基本的な枠組み	「みんなでやろうよ～チームプレイの大切さ～」 0.5H
			支援の基本的なプロセス	
			アセスメント票と支援の手順書の理解	
			記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ	
		⑥ 虐待防止と身体拘束	虐待防止法と身体拘束について	「その時あなたはどうしますか～虐待・身体拘束・行動制限の予防は支援の質の向上から～」 0.6H
			強度行動障害と虐待	
		⑦ 実践報告	児童期における支援の実際	「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告③(児童)0.5H
			成人期における支援の実際	「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告①②(成人) 1H
3. その他	0.5H	「横浜市における行動障害のある方への地域移行及び地域生活に向けた方向性について」		0.5H

科目名	時間数	内 容		講義名
II 演習	6H			
1 基本的な情報収集と記録等の共有	1H	①情報収集とチームプレイの基本	情報の入手とその方法	「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」 0.5H 「知ることから始めよう～根拠を持って支援する～」 0.5H
			記録とそのまとめ方と情報収集	
			アセスメントとは	
2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解	2.5H	②固有のコミュニケーション	様々なコミュニケーション方法	「わかりにくいんです。～伝わりにくさを体験しよう～」 1H 「やりやすくする～整えられた環境での活動～」 1.5H
			コミュニケーションの理解と表出	
			グループ討議／まとめ	
3 行動障害の背景にある特性の理解	2.5H	③行動障害の背景にあるもの	感覚・知覚の特異性と障害特性	「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」 1H 「本当の理由を考えよう～冰山モデルで考える～」 1.5H
			行動障害を理解する冰山モデル	
			グループ討議／まとめ	
合計	13.2H			

講 師 一 覧（基礎研修）

	担当科目	氏 名	現 職	専任・兼任
講 義	1 強度行動障害がある者の基本的理解			
	①強度行動障害 とは	宇山 秀一	社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター 課長補佐 地域支援マネジャー	兼任
		米澤 巧美	社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター 地域支援マネジャー	兼任
	②強度行動障害 と医療	日原 信彦	横浜ハビリテーションクリニック院長	兼任
		宇野 洋太	よこはま発達クリニック副院長	兼任
	2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基本的な知識			
	③強度行動障害 と制度	西尾 紀子	社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター所長	兼任
		岡田由起子	横浜市健康福祉局障害企画課 差別・制度担当係長	兼任
		萩原 昌子	横浜市健康福祉局障害施策推進課 障害施策・制度担当係長	兼任
	④構造化	西尾 保暢	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまた工房（生活介護）施設長	兼任
		幸田 栄	社会福祉法人青い鳥 小児療育相談センター 心理士	兼任
	⑤支援の基本的 な枠組みと記録	添田 好男	社会福祉法人ル・プリ すてっぷ（地域活動ホーム）所長	兼任
		神田 宏	社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター 地域支援マネジャー	兼任
		島田 朝久	社会福祉法人いずみ苗場の会 泉区基幹相談支援センター 相談員	兼任
		齋藤 陽介	社会福祉法人同愛会 つづき地域活動ホーム 相談員	兼任
	⑥虐待防止と身 体拘束	坂田 瑞恵	横浜市泉区福祉保健センター 高齢・障害福祉課障害者支援担当係長	兼任
		徳田 浩介	横浜市松風学園（障害者支援施設） 係長	兼任
		渡辺 弥美	横浜市健康福祉局障害施策推進課 共生社会推進担当係長	兼任

※今回の講師は の者となります

	担当科目	氏 名	現 職	専任・兼任
講 義	2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基本的な知識			
	⑦実践報告	斎藤喜美夫	社会福祉法人同愛会 てらん広場第2事業所（生活介護）施設長	兼任
		明 秀行	社会福祉法人光風会 すみれ園（福祉型障害児入所施設）施設長	兼任
		五浦 洋輔	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト 相談支援課長	兼任
		西川 智久	社会福祉法人すみなす会 航（障害者支援施設）支援課長補佐	兼任
		飯山 文子	社会福祉法人白根学園 自立サポートセンター歩（宿泊型訓練施設） 施設長	兼任
		齋藤 健司	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス（障害者支援施設） 支援員（係長）	兼任
		赤川 真	NPO 法人新 グループホームはあとっこ（共同生活援助） 管理者	兼任
		幸田 栄	社会福祉法人青い鳥 小児療育相談センター 心理士	兼任
		上村 祐作	社会福祉法人白根学園 光の丘相談室（相談支援事業所）相談員	兼任
		竹内 宏大	横浜市松風学園（障害者支援施設） 支援員	兼任
		井上 雄太	社会福祉法人すみなす会 金沢地域活動ホーム りんごの森（生活介護） 支援員	兼任
		細川 祐	NPO 法人げんき 鶴見区障害者地域活動ホーム もとみや（生活介護） 管理者	兼任
		高島 明子	NPO 法人げんき 鶴見区障害者地域活動ホーム もとみや（生活介護） 支援員	兼任
	3 その他			
	横浜市における 行動障害のある 人への地域移行 及び地域生活に 向けた方向性	田辺 興司	横浜市健康福祉局障害企画課 施策推進担当係長	兼任
		川上 俊輔	横浜市健康福祉局障害施策推進課 発達障害者支援センター担当係長	

※今回の講師は の者となります

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
演 習	1 基本的な情報 収集と記録等の 共有	浮貝 明典	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト（共同生活援助） 管理者・コーディネーター	兼任
		神田 宏	社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター 地域支援マネジャー	兼任
		島田 朝久	社会福祉法人いずみ苗場の会 泉区基幹相談支援センター 相談員	兼任
		齋藤 陽介	社会福祉法人同愛会 つづき地域活動ホーム 相談員	兼任
	2 行動障害があ る者の固有のコ ミュニケーショ ンの理解	椎原 堅児	社会福祉法人ぴぐれっと 地域支援センターぴぐれっと（居宅介護・重度訪 問介護他）サービス提供責任者	兼任
		西部 真弓	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス 支援員（係長）	兼任
		金子 浩崇	社会福祉法人横浜やまびこの里 ハウス BEE（共同生活援助）係長・支援員	兼任
		黒川 敏孝	社会福祉法人横浜共生会 花みずき（障害者支援施設）主任・支援員	兼任
	3 行動障害の背 景にある特性の 理解	椎原 堅児	社会福祉法人ぴぐれっと 地域支援センターぴぐれっと（居宅介護・重度訪 問介護他）サービス提供責任者	兼任
		浮貝 明典	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト 共同生活援助 管理者・コーディネーター	兼任

※今回の講師は の者となります

強度行動障害支援力向上研修(基礎) 演習計画書

社会福祉法人横浜やまびこの里

●演習について

- ・各演習におけるグループワークは、1グループ最大8名とする。
- ・適切な進行や助言者として、各グループに補助者を1名配置し進行管理を行う。
- ・配置された補助者が講義などでグループを離れる際は、該当するグループの受講者に説明をした上で代理の補助者を配置し対応する。

●「基本的な情報収集と記録等の共有」(1時間) 演習計画

実施方法:①「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」(0.5時間)と②「知ることから始めよう～根拠を持って支援する～」(0.5時間)の2コマに分けて演習を実施。

①情報収集とチームプレイの基礎(1)「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」(0.5時間)

協働作業を中心に取り組み、チームプレイにはどのような要素が必要なのか、チームで取り組むことでどのような効果が発揮されるのか、演習を通して体験し今後の業務に活用する。

記録ツール:「主観が多い記録」と「具体的な記録」の例を比べながら、どのような記録のあり方がよいかを検討し、それぞれの職場にあった記録ツールについて考える

②情報収集とチームプレイの基礎(2)「知ることから始めよう～根拠を持って支援する～」(0.5時間)

食器洗いをするシーンでの指示や意味理解ができず混乱している事例映像を参考に、支援者の指示と本人の理解のずれや動作などをアセスメントし支援のヒントにつなげる

事例:重度知的障害を伴う自閉症者をモデルに、支援者が食器洗いをするように言語や指さしなどで促すが、本人が理解できずに立ち止まっていることや指示以外の行動を取る場面から、「できていること」「できていないこと」をアセスメントし特性を含めどのような配慮が必要か検討する

科目	分	内 容	分担	使用シート類	配 慮 点 な ど	事務局
「お互いに共有しよう」 ～記録と情報共有～ (0.5時間)	5	事前講義・演習解説	講師		①講義の狙い ②演習解説 ③グループワークの留意点	
	10	演習 「タワー作り」「自事業所での 支援記録活用方法」など	ファシリ テー ター		①役割(司会・進行・記録)確認 ②演習進行管理	必要備品類配布
	5	意見交換		記録用紙	①演習についての意見交換 ②記録のまとめ	記録用紙配布
	5	発表	講師		2グループ程度発表	
	5	まとめ	講師		①チームプレイの条件 ②基本的技術の活用と流れ	
「知ることから始めよう」 ～根拠を持って支援す る～ (0.5時間)	5	事前講義	講師		①アセスメントの目的と種類 ②観察のポイント	
	5	映像視聴	講師		演習中も繰り返し再生	
	5	個人ワーク	ファシリ テー ター	様子観察 シート①	観察ポイントを参考に、気付いた点や 気になった行動を記録	様子観察シート ①配布
	10	グループワーク		様子観察 シート②	情報共有し、視点の広がりやチーム 支援の大切さを確認	様子観察シート ②配布
	5	まとめ	講師		①アセスメントの重要性 ②客観的な評価で根拠のある支援	

●「行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解」(2.5時間) 演習計画

実施方法:①「わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～」(1時間)と②「やりやすくする～整えられた環境での活動～」(1.5時間)の2コマに分けて実施。

①固有のコミュニケーション(1)「わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～」(1時間)

視覚・聴覚・分からない言語などの疑似体験を実施。わかりにくさや伝わりにくさを体験し行動障害の背景からの理解を深める

②固有のコミュニケーション(2)「やりやすくする～整えられた環境での活動～」(1.5時間)の2コマに分けて実施。

多動や衝動性の行動がある事例を参考に、日中活動場面での様々な行動を改善するために必要な「配置案」「必要な配慮」を考え、様々な支援方法の工夫があることを演習を通じて学び、特性に合わせた個々の設定の重要性を確認する

事例:施設入所中の重度知的障害を伴う自閉症で、多動や衝動的な行動が多く常時見守りが必要であるが、障害特性に配慮した環境設定をすることで安心・安全に過ごせるようにする

科目	分	内 容	分担	使用シート類	配 慮 点 など	事務局
「わかりにくいんです」 ～伝わりにくさを体験し よう～ (1時間)	5	演習解説	講師		演習解説	
	40	疑似体験①	講師+ ファシリ テー ター	指示書①②	コミュニケーションの障害体験	指示書①②配布
		疑似体験②		読み上げ文	視覚と聴覚で異なる情報の体験	読み上げ文6種 配布
		疑似体験③			分かりにくい指示の体験	
	10	グループワーク討議	講師	記録用紙	①役割(司会・記録・発表)決め ②記録用紙記入	記録用紙配布
	5	まとめ	講師		①疑似体験の振り返り ②困り感などへの配慮を促す	
「やりやすくする」 ～整えられた環境での 活動～(1.5時間)	10	演習説明	講師		①演習目的と流れ ②事例確認 ③留意事項	
	5	歯磨きの手順説明	講師		①歯磨きの手順解説 ②現物の設置	現物設置
	15	役割決め・個人ワーク	ファシリ テー ター	個人ワーク 用紙	①役割(司会・記録・発表)決め ②記録用紙記入	記録用紙配布
	10	個人ワーク発表			①グループ内で個人ワーク案発表 ②情報共有	
	30	グループワーク		グループ ワーク用紙	①各自の意見を調整 ②グループ案作 成	記録用紙配布
	10	発表	講師		2グループ程度発表実施	
	10	まとめ	講師		①アセスメント・チーム支援の重要性 ②多角的な視点での支援	

●「行動障害の背景にある特性の理解」(2.5時間) 演習計画

実施方法:①「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」(1時間)と②「本当の理由を考えよう～冰山モデルで考える～」(1.5時間)の2コマに分けて実施。

①行動障害の背景にあるもの(1)「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」(1時間)

当事者が感じている状況を、手がかりが不十分な状況や感覚の特異性を疑似体験し、支援者として当事者の理解の仕方や感じ方の困難さを理解する

②行動障害の背景にあるもの(2)「本当の理由を考えよう～冰山モデルで考える～」(1.5時間)の2コマに分けて実施。

知的障害を伴う自閉症(40歳)の事例を参考に、行動や特性などから、行動の背景には様々な理由があることを理解する

科目	分	内 容	分担	使用シート類	配 慮 点 な ど	事務局
「私たちが困っていること」～感覚の違いを体験しよう～ (1時間)	10	演習解説	講師		演習目的	
	40	疑似体験①	講師＋ファシリテーター	折り紙 手順書①②	手がかりの不十分な活動	折り紙 手順書①②配布
		疑似体験②		手袋	感覚の特異性(手先の感覚)	手袋配布
		疑似体験③		セリフ用紙	感覚の特異性(音の洪水)	セリフ用紙配布
		疑似体験④		A4用紙	感覚の特異性(見え方の体験)	A4用紙配布
	10	まとめ	講師		①疑似体験の振り返り ②困り感などへの配慮を促す	
「本当の理由を考えよう」～冰山モデルで考える～ (1.5時間)	10	演習説明	講師		①演習目的と流れ ②冰山モデル解説	
	10	事例解説	講師		①事例紹介 ②ワークシート説明	ワークシート配布
	15	役割決め・個人ワーク	ファシリテーター	個人ワーク用紙	①役割(司会・記録・発表)決め ②記録用紙記入	記録用紙配布
	35	グループワーク		グループワーク用紙	①各自の意見を調整 ②情報共有 ③グループ案を作成	記録用紙配布
	10	発表	講師		2グループ程度発表実施	
	10	まとめ	講師		①障害特性と環境要因の捉え方 ②根拠に基づいた支援	

(網掛け部分がグループワークの時間帯です)